

平成13年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

神山霊土歌碑

御岳山頂の御嶽神社境内の玉垣内に「^{しんざんれいどのかひ}神山霊土歌碑」があります。この碑は、明治二十年二月に建立されたもので、題字は福島種臣、長歌が反歌を添えて本居^{とよかい}豊^{たかゆき}頴の作品で、山岡高歩（鉄舟）の筆によるものです。玉垣内ですので、入場には社務所の許可が必要ですが、申し込めば誰でも中に入ってみることができますので、是非ご覧になって下さい。

三人の明治の巨星が、どのような形で結びついて、この歌碑に関わったのか、実際に御岳山に登って来たことがあるのかなど興味が湧くところです。鉄舟の作品のいくつかは、山上に残されていること、「幕末三舟」のもう一人の高橋^{でいしゅう}泥舟も書なども神社に残っていることなどを考えると、一層興味が深まってきます。歌碑は、高さ約170センチメートル、幅165センチメートルの楕円形、暑さは5センチメートル、大きさの割にはかなり薄いものです。裏面には、この碑を奉納した人々の名が刻まれています。

歌の内容は神社の境内のお砂（山砂）が、田畑の虫の害を防いでくれるという古くからの信仰を詠んだものです。この信仰は、今でも続いていて、お砂を掘るための大きな鍬が最近までありましたが、昭和四十一年の台風被害の後、行方不明になっていますが、お砂を求める人は、あとを断ちません。

鉄舟は、明治二十一年に没していますから、歌碑の筆は、鉄筆最晩年のものと思われますが、楷書のしっかりとした書体で、気力に充ちたすばらしいものです。

この境内には、慶安二年、長渕村日向和田住人奉納の石燈籠などもあって、貴重な石碑類があります。あまり知られていない、隠れた文化財といえるでしょう。

以下「新山霊土石碑」の全文を書いておきます。

(文責 金井 國利)

すめろぎの 天皇能 夢乃御告乃 香山乃 高嶺能土袁 伊採

きて 来弓 平瓮耳作里 天地能 神袁迄祈 國內乃 虜

おさめぬ 平定奴 尔保都比責 神乃教止 逆鋒尔 赤土袁

ぬり 塗 大御船 艫舳耳建弓 天地乃 神相宇豆奈比

しらぎの 新羅乃 國帰化奴 大麻止乃 此神山乃 土社波

たにもはたにも 田耳母畠耳母 昆蟲乃 禍掃波世禮 綾尔々々

くしきつちかも 奇伎土可母 宇々倍々那々 然叙尊枝 此山乃

いやたかだかに 弥高々耳 引注連能 只一筋尔 神袁之母 仰氣

よのひと 世能人 齋毛里人

いなばはむ 稻葉食牟 虫波放津母 拂波須毛 神乃心叙

ふあやにかしこめ 文耳畏米

